

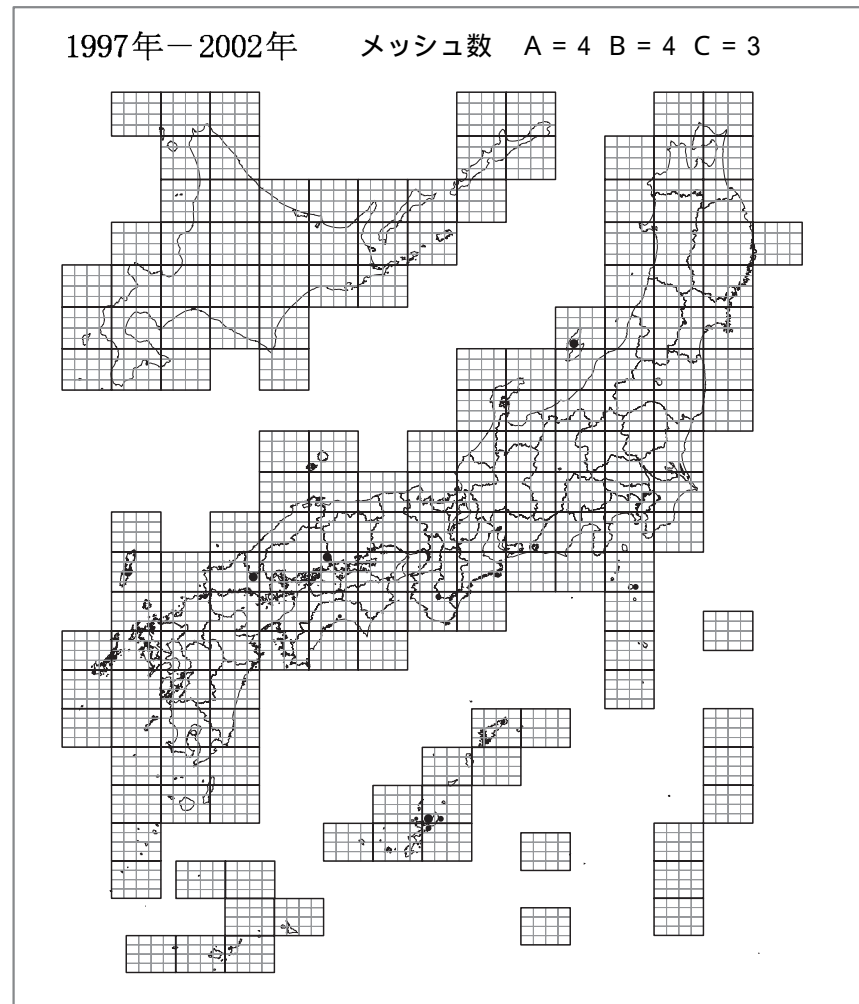
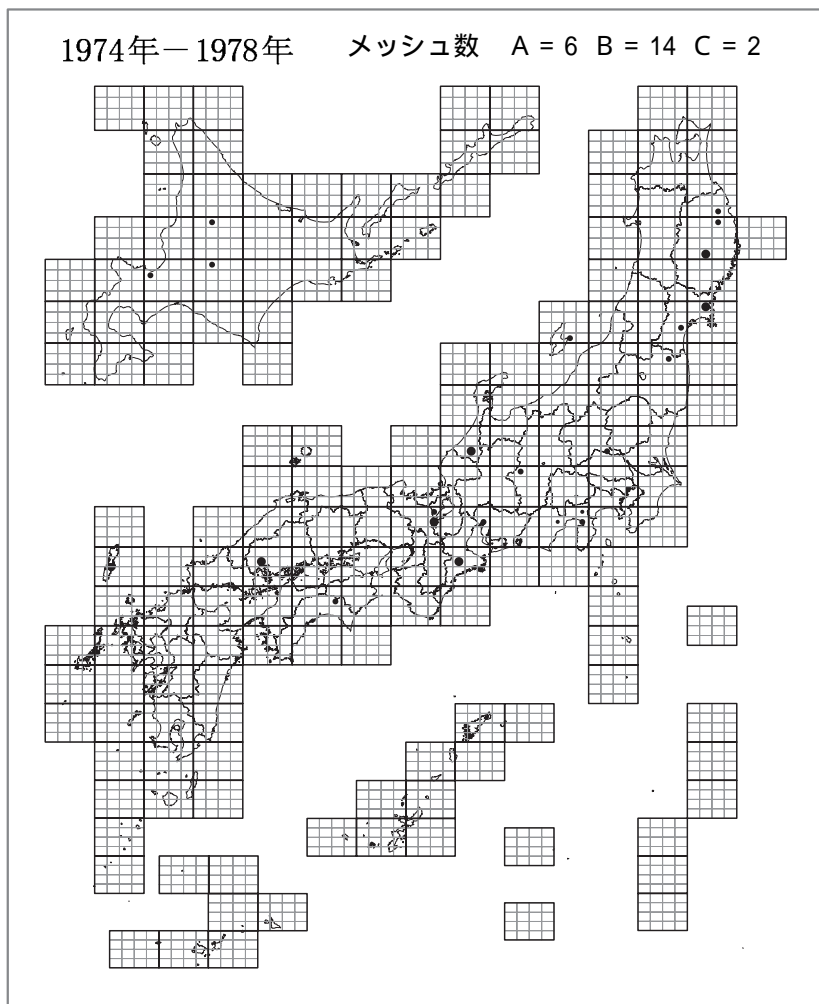
オオコノハズク

(分類) フクロウ目フクロウ科 *Otus lempiji*

(環境省RDB種) 亜種リュウキュウオオコノハズク (絶滅危惧 類)

(分布) 全国に分布。北海道のものは本州以南で越冬。東アジアから東南アジアにかけて分布。

(生態) 森林内の大木の樹洞で、4月頃から繁殖を開始し、平均6卵を産み、ふ化後約1か月で巣立つ。ネズミ類、トカゲ類、小鳥類などの小動物を捕食するが、ムカデなど無脊椎動物も食べる。



アオバズク

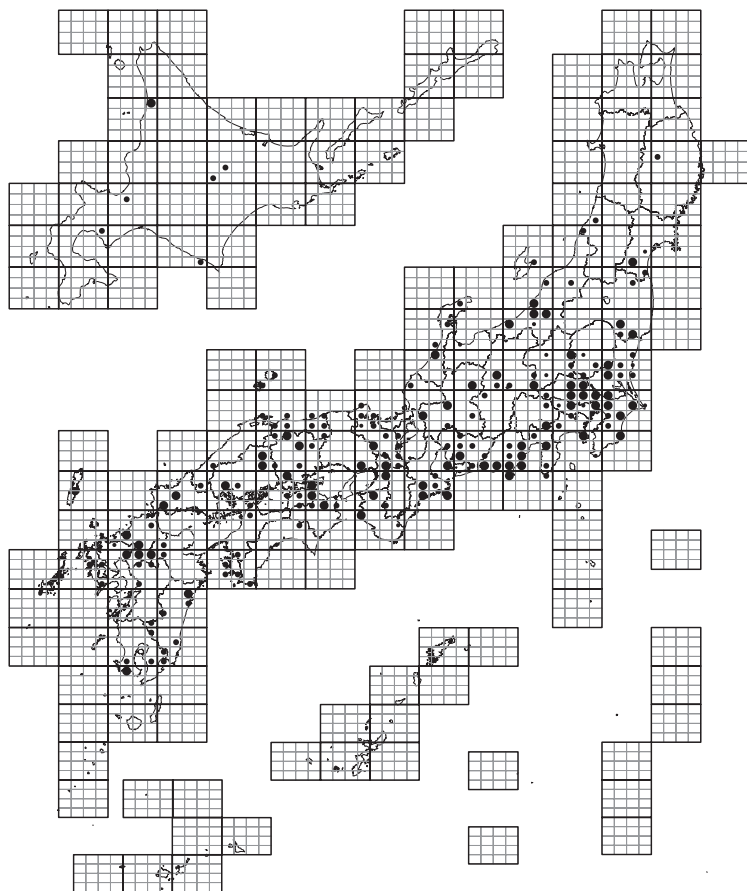
(分類) フクロウ目フクロウ科 *Ninox scutulata*

(環境省 RDB 種) -

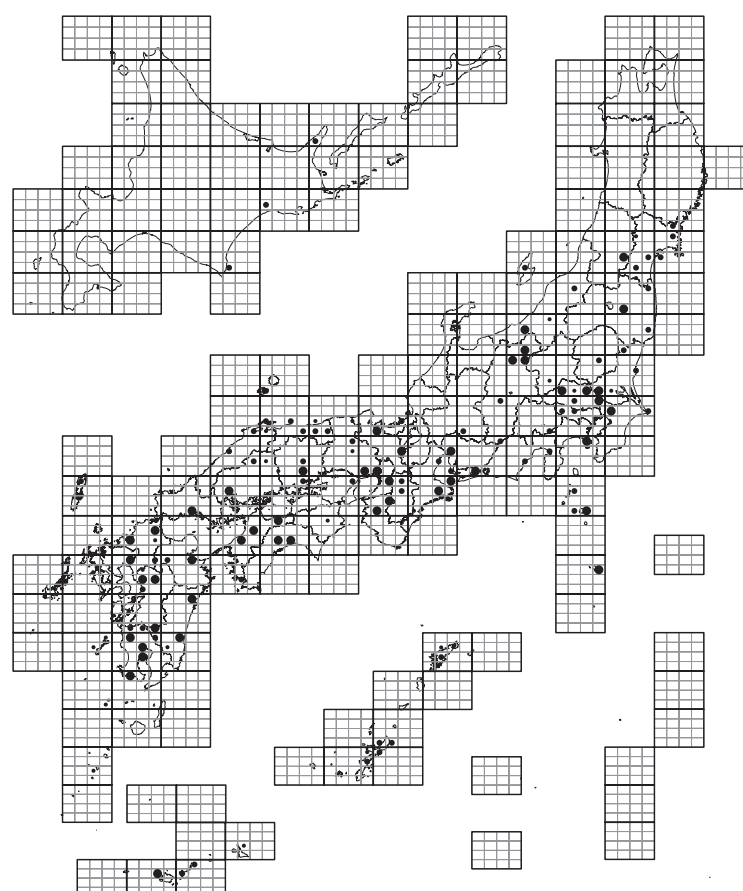
(分布) 全国で夏鳥。南西諸島では留鳥(南西諸島産亜種リュウキュウアオバズク)。東アジアから東南アジア、南アジアにかけて分布。

(生態) 広葉樹林と針広混交樹林にすみ、大木の樹洞などに営巣する。5月頃3~5卵を産み、7月頃巣立ちし、10月頃渡去する。薄暮時にコガネムシなどの昆虫を捕食する。

1974年-1978年 メッシュ数 A = 68 B = 111 C = 18



1997年-2002年 メッシュ数 A = 47 B = 60 C = 25



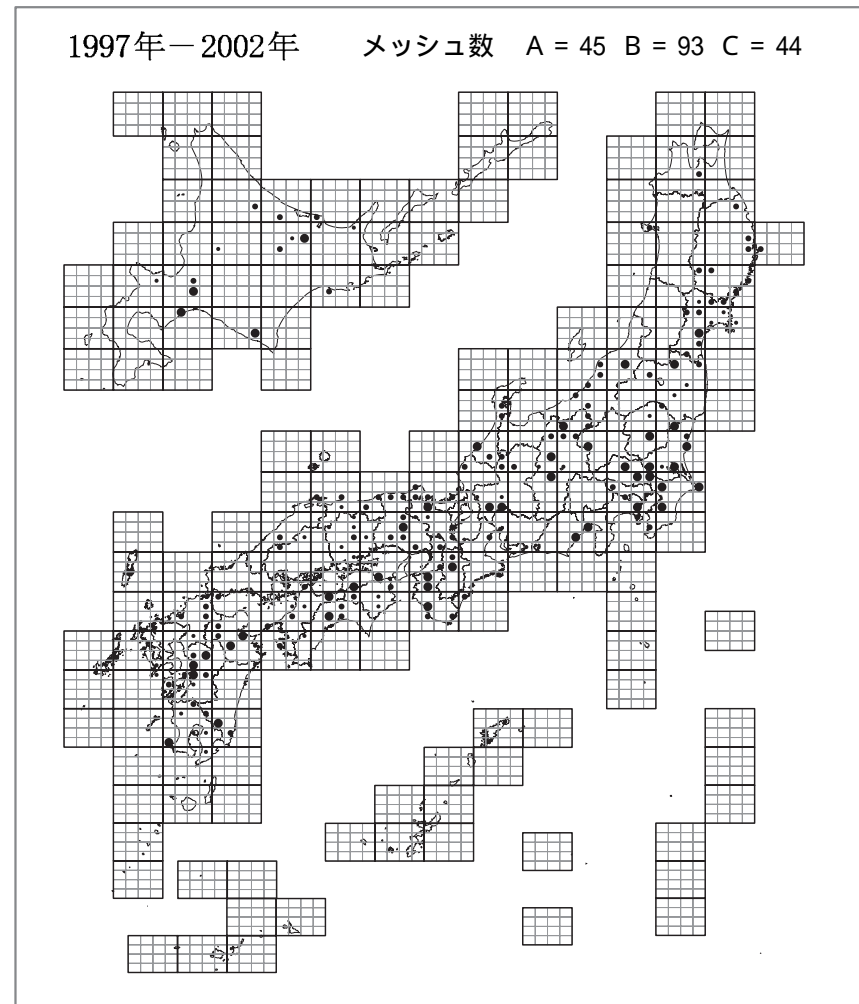
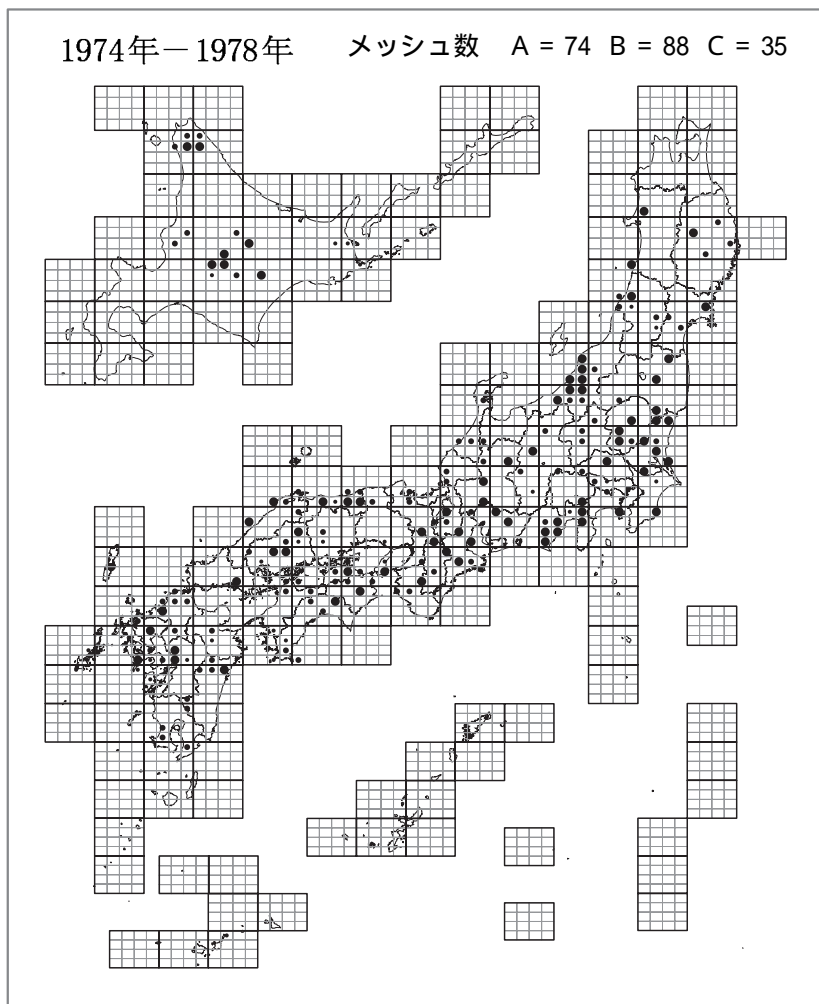
フクロウ

(分類) フクロウ目フクロウ科 *Strix uralensis*

(環境省 RDB 種) -

(分布) 九州以北で留鳥。ユーラシアの温帯～寒帯に広く分布。

(生態) 平地から亜高山帯の森林にすむ。2～3月に樹洞やカラスなどの古巣、巣箱などに営巣する。3～4卵を約30日抱卵し、ヒナは約1か月で巣立つ。夜行性で、ネズミやウサギなどの小動物、小鳥類などを捕食する。



ヨタカ

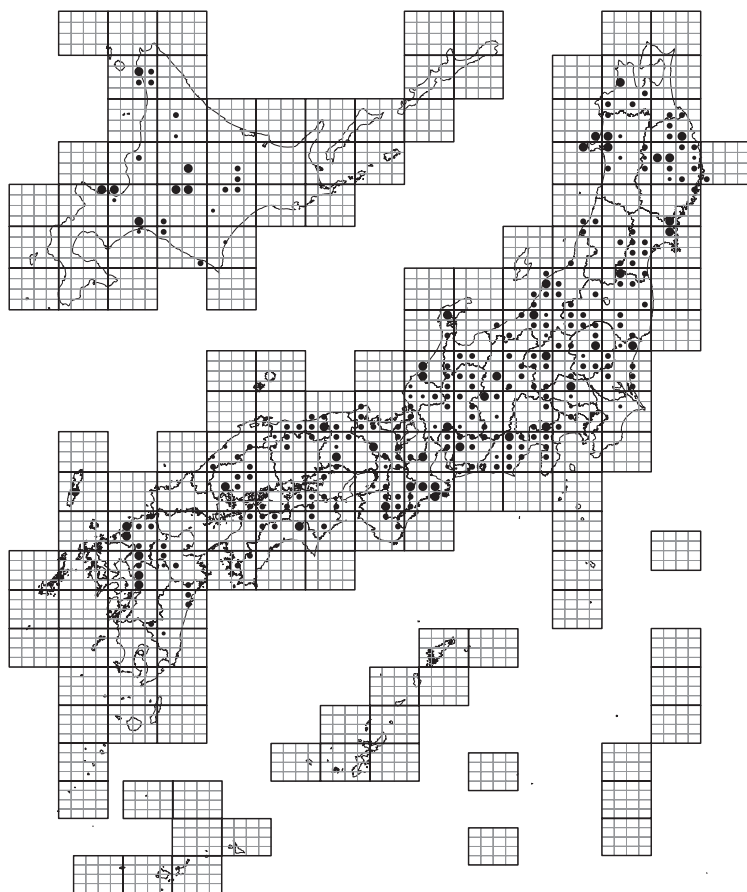
(分類) ヨタカ目ヨタカ科 *Caprimulgus indicus*

(環境省 RDB 種) -

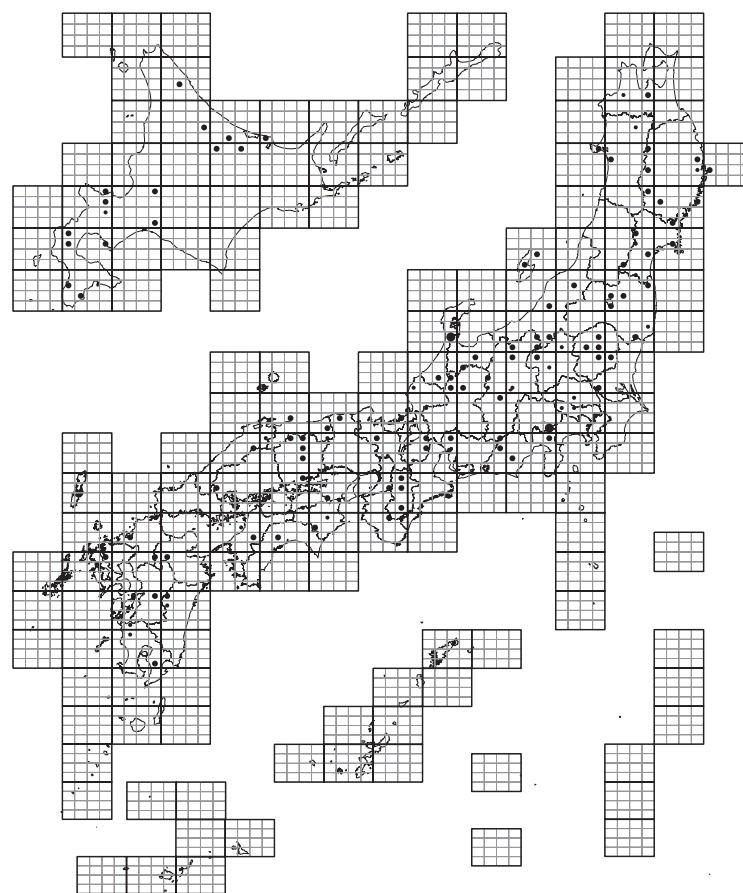
(分布) 九州以北で夏鳥。伊豆諸島や小笠原諸島で旅鳥。東アジアの温帯から亜寒帯、インドにかけて繁殖し、東アジアの個体群は東南アジアで越冬。

(生態) 疎林や林内の開けた場所にすみ、地上に営巣する。6月頃より2卵を雌雄交代で19日前後抱卵し、ヒナはふ化後15日くらいで飛べるようになる。薄暮～夜行性で、飛びながら昆虫類を捕食する。

1974年—1978年 メッシュ数 A = 49 B = 200 C = 41



1997年—2002年 メッシュ数 A = 2 B = 95 C = 27



ハリオアマツバメ

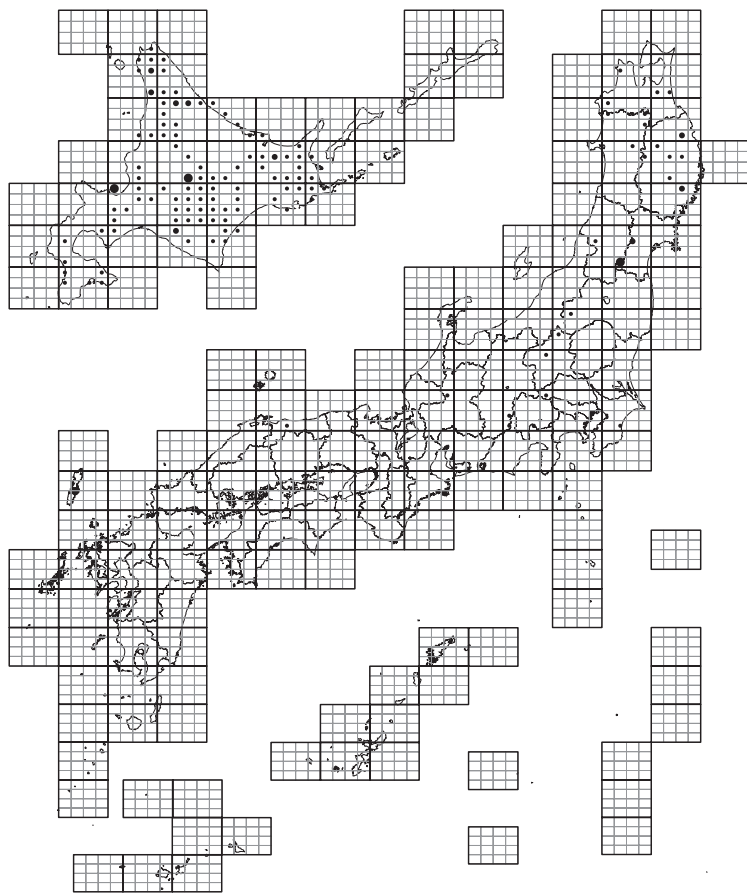
(分類) アマツバメ目アマツバメ科 *Hirundapus caudacutus*

(環境省 RDB 種) -

(分布) 本州中部以北の山地や北海道の森林で夏鳥。アジア北東部とヒマラヤ周辺に分布し、北の個体群はニューギニアやオーストラリアで越冬。

(生態) 6～7月に樹洞などに枯れ草などを唾液で固めて営巣。2～7卵を産む。飛翔性で、空中で飛翔昆虫を捕食し、巣材集めから水飲み、水浴びに到るまで飛びながら行う。

1974年－1978年 メッシュ数 A = 3 B = 9 C = 117



1997年－2002年 メッシュ数 A = 1 B = 1 C = 41

